



銀行員になるはずだったコンスタンティン・ヴァイサーが、2005年に立ち上げた醸造所。ドイツ南部のヴュルテンベルクにあるヴァインズベルクの醸造学校で、ワイン栽培醸造技術者の資格を取ったあと、2003年にモーゼルのエンキルヒにあるイミツヒ・バッテリーベルク醸造所の醸造責任者に就任。間もなくエンキルヒャー・エラグループの1.8haの畑に出合う。耕地整理されていない、自根の一部100歳にもなる葡萄樹のみの区画を、長期賃貸契約で借りることに成功。それが、この醸造所のはじまりとなった。2021年現在、4haのブドウ畑でリースリングだけを栽培している。

コンスタンティンはバイエルン・シュヴァーベン地方の出身。同じくフランケン出身でパートナーであるアレクサンドラ・キュンストラーと、モーゼルで出会う。モーゼルリースリングへの情熱と専門知識をお互いに理解し、補充し合っている。コンスタンティンは醸造を担当、アレクサンドラは運営や実務を担当。二人とも葡萄畑での仕事を愛している。また、『クリツクライネ・リング』というプロジェクトに参加していて、耕作放棄地となっている急斜面の葡萄畑の救済を通じ、葡萄畑の広がる美しいモーゼル特有の景観の維持に貢献している。当初から有機栽培だったが、近年EU-Bioに認証されたブドウ畑のワインは、認証マークをラベルに記載するようになった。

2021	8月まで冷涼で雨勝ち、9月の好天が救いとなった。低アルコール濃度で酸度が高い。
2020	5月末に開花、夏の暑さと乾燥で成熟が急速に進んだが、9月中旬からの低温と雨で軽く繊細なワインが多い。
2019	開花は6月中旬と遅かったが、夏の猛暑で成熟が急速に進んだ。秋は冷涼で雨勝ちで、収穫が急がれた。
2018	猛暑の夏だったが、年初の雨で地中にたまった水分に救われた。収穫期は涼しく、弱冠の雨は収量の増加をもたらした。
2017	4月下旬の遅霜で、収穫量は3分の1になった。夏は温暖で乾燥した天候で、9月上旬に局地的に大雨に見舞われたものの、9月後半は好天に恵まれた。
2016	モーゼルでは遅霜に、雹、初夏の大雨と収量が大きく減った。夏から収穫にかけては、天候が回復した、安心して収穫できた。
2015	収量は多くはないが、しっかりと果実が熟した。
2014	展葉、開花ともに例年より2~3週間早かった。夏は雨勝ちで寒かったが、9月の好転で成熟はすすんだ。が、10月上旬の大雨で収穫が急がれ、選果で収量が減った。

	<b>◎ Enkircher Zepwingert - Riesling Sekt Brut Nature</b> エンキルヒャー・ツェップヴィンゲルト リースリング・ゼクト・ブリュット・ナチュラル		備考 伝統的瓶内二次発酵のスパークリングワイン。 ヴィンテッジにより残糖度が異なる。
	畑 品種：リースリング 植樹：1975年 位置：海拔120~190m 西向き、傾斜65度 土壌：風化した青色粘板岩土壌	醸造 ニュートラルな小樽（パリック）で野生酵母により発酵、澱引きなしで6か月間熟成 瓶内で二次発酵を含めて18か月間熟成	
	<b>○ Weiser Künstler - Riesling</b> ヴァイサー・キュンストラー リースリング		備考 ヴァイサー・キュンストラー醸造所の最もベーシックなワイン。造り手のリースリングに対する哲学と理解が表れている。ラベルにtrockenやfeinherb, halbtrockenの表記はない。フルーティな辛口がこのワインのスタイルであり、分析値はtrockenになったりhalbtrockenになったりするので、あえて表記しないことにしている。
	畑 品種：リースリング 葡萄畑：Trabener Schlossberg, Wolfer Sonnenlay, Enkircher Steffensberg 植樹：1980年頃 位置：標高250m、急斜面の畑 土壌：青色及び灰色粘板岩土壌	醸造 1000Lフーダーで醗酵 1000Lフーダー及びステンレスタンクで約5か月間熟成	
	<b>○ Trarbacher Ortswein - Riesling trocken</b> トラーバッハー・オルツヴァイン リースリング・トロッケン		備考 トラーバッハの村名辛口ワイン（オルツヴァイン）は2018年が初リリース。
	畑 品種：リースリング 植樹：トラーバッハー村の複数の畑のブドウ樹 位置：急斜面 土壌：青色および灰色粘板岩	醸造 手作業で収穫、マセレーションなしで圧搾 一晩静置して清澄し、伝統的なフーダー樽で野生酵母により自然に発酵した後澱引きせずに熟成 3月末に一度だけフィルターをかけて4月に瓶詰め	

	<p align="center"><b>○Trabener Gaispfad - Riesling Kabinett trocken</b>          トラーベナー・ガイスプファード          リースリング・カビネット・トロッケン</p>			
	畑 品種：リースリング 植樹：1970年頃 位置：急斜面の畑 土壌：赤色及び青色粘板岩土壌 栽培：ピオロジック	醸造 手作業で収穫、マセレーションなしで 圧搾 一晚静置して清澄し、伝統的なフー ダー樽で野生酵母により自然に発酵し た後澱引きせずに熟成 3月末に一度だけフィルターをかけて4 月に瓶詰め	備考	トラーベナー・ガイスプファードに自 己所有している0.5haの畑で、自根の ブドウが主体。 ヴィンテッジの残糖度により、通常ト ロッケンカノリルトロッケンで仕上げ る。
	<p align="center"><b>○Enkircher Ellergrub - Riesling trocken "Große Eule"</b>          エンキルヒャー・エラーグループ          リースリング・トロッケン "グロース・オイレ"</p>			
	畑 品種：リースリング 植樹：多くが古木の自根 位置：南西向き、海拔110~250m、 斜度約66度（約224%） 土壌：珪岩混じりの灰色及び青色ス レート粘板岩土壌 栽培：ピオロジック	醸造 手作業で収穫、マセレーション24時間 後に圧搾 容量500Lのトノー樽で野生酵母によ り自然に発酵した後澱引きせずに約1 年間熟成	備考	トラーベナー・ガイスプファードに隣 接する畑で土壌と立地条件は共通して いる。地元ではシュタルケンブルク （Starkenburg）と呼ばれる険しい崖 のような斜面にある。それゆえに耕地 整理を免れ、貴重な古木が多数残って いる。 グロース・オイレは醸造所独自の格付 けで、グラン・クリュ辛口の意味。文 字通りには「大きなフクロウ」。
	<p align="center"><b>○Enkircher Steffensberg - Riesling trocken</b>          エンキルヒャー・シュテッフェンスベルク リースリング・トロッケン</p>			
	畑 品種：リースリング 植樹：多くが古木の自根 位置：南向き急斜面、海拔120~ 180m、斜度60度前後（約173%） 土壌：表土が深く酸化鉄を多く含む粘 板岩土壌 栽培：ピオロジック	醸造 手作業で収穫、マセレーションなしで 圧搾 一晚静置して清澄し、伝統的なフー ダー樽で野生酵母により自然に発酵し た後澱引きせずに熟成 3月末に一度だけフィルターをかけて4 月に瓶詰め	備考	イミッシ・バッテリーベルクが所有す る畑の別の区画。エンキルヒ村の北に ある南向き斜面。他よりも赤い果実を 思わせるアロマがあり、親しみやすい 印象。
	<p align="center"><b>○Trabacher Schlossberg - Riesling Kabinett</b>          トラーバッハー・シュロスベルク リースリング・カビネット</p>			
	畑 品種：リースリング 植樹：多くが古木の自根 位置：南西向き、海拔130~180m、 斜度約66度（約224%） 土壌：珪岩混じりの灰色及び青色ス レート粘板岩土壌	醸造 手作業で収穫、マセレーションなしで 圧搾 一晚静置して清澄し、伝統的なフー ダー樽で野生酵母により自然に発酵し た後澱引きせずに熟成 3月末に一度だけフィルターをかけて4 月に瓶詰め	備考	新たに入手した区画からの甘口カビ ネット。前の所有者が2017年からピ オで栽培している。 耕地整理をされていないので古木が多 く残る。1897年にはグラン・クリュ に格付けされていた。

	<p align="center"><b>○Wolfer Sonnenlay - Riesling Kabinett</b> ヴォルフアー・ゾンネンライ リースリング・カビネット</p>			<p>ヴォルフ村近郊の支流の斜面にある畑。19世紀の格付けで最上級だった（当時の名称はフォルダーベルク Vorderbergとヒンターベルク Hinterberg）。</p> <p>南向き斜面でブドウがよく熟し、例年ならば酸度が低いので甘口には向かないため辛口に仕立てるが、2021年は酸度が高かったため甘口に仕上げた。</p>
	<p align="center"><b>○Enkircher Ellergrub - Riesling Kabinett</b> エンキルヒャー・エラーグリーブ リースリング・カビネット</p>			<p>トラーベナー・ガイスブファードに隣接する畑で土壌と立地条件は共通している。地元ではシュタルケンブルク（Starkenburg）と呼ばれる険しい崖のような斜面にある。それゆえに耕地整理を免れ、貴重な古木が多数残っている。</p>
畑	<p>品種：リースリング 植樹：1960～1964年（全て自根） 位置：南向き急斜面 土壌：風化した灰色粘板岩</p>	醸造	<p>手作業で収穫、軽く破碎してからマセレーションなしで压榨 一晚静置して清澄し、伝統的なフーダー樽で野生酵母により自然に発酵した後澱引きせずに熟成</p>	備考
畑	<p>品種：リースリング 植樹：多くが古木の自根 位置：南西向き、海拔110～250m、斜度約66度（約224%） 土壌：珪岩混じりの灰色及び青色スレート粘板岩土壌 栽培：ビオロジック</p>	醸造	<p>手作業で収穫、マセレーションなしで压榨 一晚静置して清澄し、伝統的なフーダー樽で野生酵母により自然に発酵した後澱引きせずに熟成 3月末に一度だけフィルターをかけて4月に瓶詰め</p>	備考